

都市再生整備計画 事後評価シート
うへのまち地区

平成28年3月

三重県伊賀市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	三重県	市町村名	伊賀市	地区名	うへのまち地区	面積	140ha					
交付期間	平成23年度～平成27年度	事後評価実施時期	平成27年度	交付対象事業費	1463.8百万円	国費率	0.441					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業 街なみ環境整備事業:道路美装化事業(農人町八幡町線、中町新長田橋線、東丸之内西大手町線、丸之内久米線、三之町線、愛宕神社線、愛宕町恵美須町線)、広場整備事業(紺屋町広場)、地域交流施設整備事業(赤井家住宅)、景観修景整備補助事業、高次都市施設:生涯学習センター整備事業、子育て包括支援センター整備事業、既存建物活用事業:街巡り拠点施設整備事業(成瀬平馬屋敷門活用事業)	提案事業 地域創造支援事業:上野城築城400年記念事業、まちなか再生啓発イベント	事業名								
	当初計画から削除した事業	基幹事業 街なみ環境整備事業:ポケットパーク整備事業(中町、鍛冶町、東町ポケットパーク)	提案事業 高次都市施設:芭蕉翁記念館整備事業(観光交流スペース)	削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
		基幹事業 高次都市施設:芭蕉翁記念館整備事業(観光交流スペース)	提案事業 地域創造支援事業:芭蕉翁記念館整備事業	用地が取得できていないことから、また、用地上の既存建物撤去時期が延びたため		影響なし						
	新たに追加した事業	基幹事業 既存建物活用事業:まち巡り拠点施設整備事業(成瀬平馬屋敷門)	提案事業 地域創造支援事業:まちなか再生啓発イベント(イベント事業)	他事業との調整のため、交付期間中の実施を見送った。		指標2「歩行者通行者数」、指標3「観光施設入込客数」にマイナス影響 指標2 32,400※(人/年)÷360日=18(人/日) ※32,400(人/年)=(利用見込)50,000(人/年)-(現利用数)17,600(人/年)						
		基幹事業 既存建物活用事業:まち巡り拠点施設整備事業(成瀬平馬屋敷門)	提案事業 地域創造支援事業:まちなか再生啓発イベント(イベント事業)	他事業との調整のため、交付期間中の実施を見送った。		指標3 32,400※(人/年) ※32,400(人/年)=(利用見込)50,000(人/年)-(現利用数)17,600(人/年)						
	交付期間の変更	当初	平成23年度～平成27年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		城下町のまち巡り、まち歩きを促す拠点として敷地を取得し、活用の必要性が高い建物として修繕設計したが、事業調整のため、整備は次期計画に持ち越しとなった。		影響なし				
変更			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		駅前再開発ビル「ハイトピア」のオープンイベントであり、指標への直接的影響は少ないため、指標目標は据え置く。							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合見)	フォローアップ予定時期		
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	暮らしやすさに関する満足度	%	15.0	H21	18	H27	7.3	×	あり	子育て包括支援センターや生涯学習センターの整備により、施設利用者が増加しており、中心市街地の魅力向上に繋がっている。しかし、指標対象が、市内全域で幅広い年齢層に対して行う「まちづくりアンケート」によっていることから、効果が十分示されない結果となっている。	
	指標2	歩行者・自転車通行量	人/日	2,462	H21	3,819	H27	4,096	○	あり	再開発ビルを含む駅前広場一体の整備が完了したことにより、施設利用者の増加や、駅広イベントの開催も増えたことで、人の流れが活発化し、目標達成につながった。	平成28年4月
指標3	観光客入込み客数	人/年	416,258	H21	423,220	H27	361,302	×	あり	道路美装化事業や修景助成事業、生活環境施設整備事業(赤井家住宅整備事業)などにより、城下町らしい歴史的街並みの形成が進んだが、既存観光施設の入込み客数増には繋がらなかった。		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合見)	フォローアップ予定時期		
	その他の数値指標1	子育て支援センター利用者数	人/年	16,462	H23.3末		37,429			あり	平成24年4月から再開発ビル内に整備した、子育て包括支援センターが稼働しており、市内全体の利用者増の要因となっている。	
その他の数値指標2	歴史、文化や風土の満足度	%	6.9	H22			53.1		あり	平成20年9月に「伊賀市ふるさと風景づくり条例」が施行され、景観重点区域内の修景整備補助事業を継続的に実施しており、また、国指定重要有形民俗文化財上野天神祭りでだんじりが運行するルートを中心に、道路美装化を実施してきたことにより、住民の城下町景観の維持向上意識が向上した。		
4)定性的な効果発現状況	<p>・平成24年4月16日に再開発ビル「ハイトピア」に移転、利用開始した生涯学習センターでは、ダンス教室などの市民サークル活動が発見に行われており、施設内外に日常的ににぎわいが生まれている。再開発ビル内の施設利用者がビル内や近隣の商店でする購買行動がにぎわいの好循環を生んでいる。</p> <p>・生活環境施設整備により、平成26年9月に完成し同年10月に供用開始した「赤井家住宅」は、武家屋敷の趣を現代に残した貴重な施設であるが、飲食提供を含む事業の用に供するなど、幅広い利用を可能としていることから、中心市街地内に出店を考える人のチャレンジジョブ的な用途にも利用され、そこから出店に繋がると、まちのにぎわい創出に寄与している。また、施設内のトイレを一般利用可能とし、周遊する観光客等の利便性を高めている。</p> <p>・道路美装化事業や景観修景補助事業により、エリア内の景観レベルが向上したことで、町家の保存に対する住民意識が高まり、文化財登録される建物が増加し、町家を改装して店舗運営するなどのにぎわい創出の好循環が生まれてきている。</p>											
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	・歩行者・自転車通行量調査 ・観光客入込み客数調査		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も継続した調査を行う。				
	住民参加プロセス	・旧街かん計画(平成20～29年までの計画)で設立した、中心市街地地区住民代表者、事業者など現在17人で構成される「うへのまちまちづくり協議会(以下「まち協」という。)」において計画の策定や施策・事業の検討に取り組んだ。 ・武家屋敷活用事業(地域交流施設整備事業)において、地域住民、まち協委員を交えたワークショップを行った。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● まち協において出された意見、今後出される意見を次期計画や整備施設運営において活かしていく。				
	持続的なまちづくり体制の構築	・中心市街地活性化基本計画の中で設立された「株式会社まちづくり伊賀上野(以下「まち会社」という。)」が、空き家情報/パンクや食イベントを運営するなどにより、継続的なまちづくりに貢献している。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● まち会社の活動成果を検証しつつ、永続的にまちづくり支援できる体制を整えていく必要がある。				

様式2-2 地区の概要

うえのまち地区(三重県伊賀市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
人が集まり賑わい、次世代を育てる繋げるまちの創造 目標1: 子供から高齢者まで安心して豊かに暮らせるまちづくり 目標2: にぎわいのある中心市街地の復興 目標3: 歴史と文化を活かした楽しく歩けるまちづくり	暮らしやすさに関する満足度	単位: %	15 H21	18 H27	7.3 H27
	歩行者・自転車通行量	単位: 人/日	2,462 H21	3,819 H27	4,096 H27
	観光客入込み客数	単位: 人/年	416,258 H21	423,220 H27	361,302 H27
		単位:	H21	H27	H27
		単位:	H21	H27	H27

①まち巡り拠点施設整備事業

②修景助成事業

③道路美化事業

④生活環境施設整備事業

⑤広場整備事業

⑥生涯学習センター整備事業

⑦子育て包括支援センター整備事業

■既存建物活用事業 (観光交流センター)
①まち巡り拠点施設整備事業 (成瀬平馬屋敷門活用事業)

■街なみ環境整備事業
②修景助成事業
③道路美化事業
④生活環境施設整備事業
⑤広場整備事業

■高次都市施設 (地域交流センター)
⑥生涯学習センター整備事業
⑦子育て包括支援センター整備事業

○関連事業
上野市駅前地区第一種市街地再開発事業
伊賀上野橋新都市線社会資本整備総合交付金事業
再開発ビルテナントミックス事業
都)上野丸之内駅前広場線整備事業
都)伊賀上野橋新都市線整備事業

○関連事業
伊賀市景観計画修正及び公共サイン計画策定

○関連事業
保健センター・男女共同参画センター整備事業
放課後児童クラブ整備事業

凡例
■ 基幹事業
■ 提案事業
○ 関連事業、関連社会資本整備事業
○ ふるさと風景づくり条例に基づく重点風景地区

まちの課題の変化

- 市役所をはじめ商業・業務・文化機能が集積し、バスや鉄道の公共交通の拠点であるべき中心市街地において、子供から高齢者までが安心して豊かに暮らすために必要な交流施設や、子育て世代を支援のする場など公共公益サービス機能が不足している。このことにより若い世代が当地区から流出し、少子高齢化に拍車をかけているため、さまざまな世代が暮らしやすい環境整備を行う必要がある。→地域の誰もが利用できる生涯学習施設や子育て包括支援センター、保健センターなど高次都市施設を導入し、また放課後児童クラブなどの次世代育成支援施設を整備することで、子供から高齢者まで安心して豊かに暮らせる環境整備ができた。今後は施設利用の促進を図ることで世代交流を活発にしていける必要がある。
- 市街地近郊へのロードサイド型の大型商業施設の出店により、商店街は衰退し、商業機能が低下しているため、買い物客がアクセスしやすい環境を整備する必要がある。→街なみ環境整備事業や上野市駅前地区第一種市街地再開発事業、再開発ビルテナントミックス事業の完了により上野市駅前を中心とする市街地へのアクセス性が向上した。今後は、更なるまちのにぎわい創出のため既存施設の利活用を検討する必要がある。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

- 上野城をはじめとする数多くの観光資源があるにもかかわらず、これら個々の資源をつなぐ動線が確立されていないため、歴史的な数多くの建築物により形成される伝統的なまちなみを有効に活かした回遊しやすくなる環境を整備する必要がある。→道路美化事業や町家をはじめとする城下町の景観を構成する建造物の修景が進み、歴史的街なみの景観の維持・向上が図られた。今後は、景観の維持向上を継続して回りながら、策定したサイン計画に基づき市街地のインフォメーション機能を向上させ、回遊促進を図る。
- 再開発ビル内に整備した、生涯学習センター、子育て包括支援センターの利用を促進し、また、駅前広場でのイベントの実施により、中心市街地内外の交流を活発化させ、更なるにぎわいの創出に努める。
- 街なみ環境の更なる向上により、文化的価値の高い建造物の保存活用を促し、また、空き店舗や空家の活用により、中心市街地にある地域資源の活用を促進する。
- 公共サイン計画に基づく案内板の設置により、市街地のインフォメーション機能を高め、観光客などの来外者の利便性向上と回遊性の向上を図ることで、観光商業地としてのポテンシャルを最大限に引き出すよう努める。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		①歩行者・自転車通行量 3,818人/日 ②観光客入込み客数 448,000人/年	①歩行者・自転車通行量 3,819人/日 ②観光客入込み客数 423,220人/年	①《プラス要素》「景観計画・サイン計画」…3,839(人/日)×0.5%=19(人/日)《マイナス要素》「芭蕉翁記念館整備事業」…32,400※(人/年)÷360日≒18(人/日)※32,400(人/年)=(利用見込)50,000(人/年)-(現利用数)17,600(人/年) ②《プラス要素》「街なみ環境整備事業(生活環境施設)」…635(人/月)×12≒7,620(人/年)《マイナス要素》「芭蕉翁記念館整備事業」…32,400※(人/年)※32,400(人/年)=(利用見込)50,000(人/年)-(現利用数)17,600(人/年)
D. その他()					

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業		単位:百万円							
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設									
高質空間形成施設									
高次都市施設	生涯学習センター整備事業	525	1214.19㎡	559	1210.44㎡	設計精査による面積の減、事業実施に伴う事業費の変更	影響なし	●	
高次都市施設	子育て包括支援センター	170	502.74㎡	161	446.12㎡	設計精査による面積の減、事業実施に伴う事業費の変更	影響なし	●	
既存建造物活用事業	まち巡り拠点施設整備事業(成瀬平馬屋敷門)	0		64	1074.77㎡	城下町のまち巡り、まち歩きを促す拠点として敷地を取得し、活用の必要性が高い建造物として修繕設計したが、事業調整のため、整備は次期計画に持ち越しとなった。	影響なし	—	—
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業	道路美化事業(農人町八幡町線、中町新長田橋線、東丸之内西大手町線、丸之内久米線、三之町線、愛宕神社線、愛宕町恵美須町線、愛宕町崇広堂線)	613	14,345㎡	480	13,620㎡	事業実施調整に伴う実施路線の変更	目標3に影響するが、指標への影響は少ないため、指標目標は据え置く。		●
街なみ環境整備事業	小公園、緑地(紺屋町広場)	77	1,481㎡	32	1,051㎡	事業用地取得の見込みがなくなったことによる、事業の削減	目標3に影響するが、指標への影響は少ないため、指標目標は据え置く。	●	
街なみ環境整備事業	生活環境施設(赤井家住宅)	101	573.82㎡	145	573.82㎡	事業実施に伴う事業費の変更	影響なし	●	
街なみ環境整備事業	景観修景	61	景観修景補助	9	景観修景補助	事業実施に伴う事業費の変更	目標3に影響するが、指標への影響は少ないため、指標目標は据え置く。		●
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	上野城築城400年記念事業	7.5	イベント事業	7.5	イベント事業	なし		●	
	まちなか再生啓発イベント	0		1.7	イベント事業	計画中間年にあたる平成25年度において、市街地再開発事業を中心とした各事業成果の周知と今後の取り組みへの理解を深めるため、啓発イベントを実施	駅前再開発ビル「ハイトピア」のオープンイベントであり、指標への直接的影響は少ないため、指標目標は据え置く。	●	
	芭蕉翁記念館整備事業 (展示スペース)	902.4	1,035㎡	0		計画変更のため実施見送り	指標に対する事業効果については次期計画で測ることとしていたため影響なし	—	—
	桃青中学校解体事業	127.6	1棟	0		計画変更のため実施見送り	影響なし	—	—
事業活用調査	事業効果分析調査事業	2	事業効果計測作業	2	事業効果計測作業	なし			●
まちづくり 活動推進事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画			
効果促進事業	伊賀市景観計画修正及び公共サイン計画策定		7	7	平成26年度	平成26年度	街なみ環境整備事業の関連事業としてH27中に策定。次期計画においても事業継続予定の景観修景事業や、次期計画で実施検討中の案内板設置事業にも活用	事業主体: 伊賀市	
	放課後児童クラブ整備事業	上野紺屋町	59	59	平成23年度	平成23年度	厚生労働省所管補助金事業	事業主体: 伊賀市	
	上野市駅前地区第一種市街地再開発事業	上野丸之内	5,600	5,600	平成17年度～平成24年度	平成17年度～平成24年度	社会資本整備総合交付金事業として実施	事業主体: 伊賀市	
	伊賀上野橋新都市線社会資本整備総合交付金事業	上野丸之内	500	800	平成23年度～平成25年度	平成23年度～平成25年度	社会資本整備総合交付金事業として実施	事業主体: 三重県/伊賀市	
	保健センター・男女共同参画センター整備事業	上野丸之内	209	209	平成23年度	平成23年度	社会資本整備総合交付金事業として実施	事業主体: 伊賀市	
	再開発ビルテナントミックス事業	上野丸之内	250	250	平成23年度	平成23年度	経済産業省所管 戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金事業	事業主体: 上野産業会館	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
				基準 年度		基準 年度		目標 年度					あり	なし	
指標1	暮らしやすさに関する満足度	%	伊賀市総合計画に基づく「まちづくりアンケート」における設問「まちなかが整然としつつも、にぎわいを生んでいる。」に対する市民の満足度・不満足度を測定する。	17.6	H19	15	H21	18	H27	モニタリング			モニタリング		●
										事後評価	確定 ● 見込み	7.3	事後評価	×	
指標2	歩行者・自転車通行量	人/日	中心市街地における商業重点軸(本町通り、再開発ビル周辺)4地点における歩行者通行者数を測定する。	2,752	H19	2,462	H21	3,819	H27	モニタリング	2,223	H24	モニタリング		
										事後評価	確定 ● 見込み	4,096	事後評価	○	
指標3	観光客入込み客数	人/年	市観光戦略課が観光施設管理者から徴した情報である中心市街地にある観光施設(11施設)の入込み客数を測定する。	449,094	H19	416,258	H21	423,220	H27	モニタリング	351,068	H24	モニタリング		●
										事後評価	確定 ● 見込み	361,302	事後評価	×	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	総合計画に基づく「まちづくりアンケート」の1設問に対する回答を計測する手法としたが、都市再生整備計画事業の実施内容について示しているものでなく、また、市域面積の広大な本市において中心市街地へのハード整備が主な事業である本計画について、アンケート対象を市内全域としていることから、事業実施から間もない現時点において事業効果を受けた対象者が全体に占める割合が低かったものと思われる。	総合計画に基づく「まちづくりアンケート」の1設問に対する回答を計測する手法としたが、都市再生整備計画事業の実施内容について示しているものでなく、また、市内全域を対象としていることから、事業効果を計測する手法として十分でなかった。事業効果を直接計測するため、整備施設を含む市内の子育て支援センター利用者数を計測することで指標補完を行う。
指標2	上野市駅前地区第一種市街地再開発事業で平成25年に完成した、再開発ビル「ハイトピア」と駅前駐車場整備により、計測地点における歩行者・自転車通行量が大幅に増えた。関連事業における啓発イベントや周辺整備により、今後さらに増加すると期待できる。	再開発事業完了後に、エリア内でイベントなどの事業取組みが活発化してきており、今後さらに増加すると期待できる。同地点での歩行者・自転車通行量は毎年2回計測しており、今後も継続実施する予定である。
指標3	当初計画で実施予定であった、観光交流施設整備事業(芭蕉翁記念館)が事業実施見送りになったことで、事業実施内容と効果発現指標との関連性が適切でなくなったため、事業効果が十分計測できなかったことが原因と考える。	実施事業の内容と効果発現指標との関連性が適切でなくなったため、事業効果が十分計測できなかったことが原因と考える。事業内容の変更と共に、指標設定を修正するなど、効果発現が指標に反映されるようにすべきであった。現時点で事業効果を直接感じる機会が多いと考えられる施設利用者、中心市街地住民に対して、実施事業内容を示した独自アンケートを実施し、計測することで指標補完を行う。

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)	
				基準年度		基準年度						
その他の数値指標1	子育て支援センター利用者数	人/年	平成27年3月末時点の子育て支援センター年間利用者数を計測する。平成27年3月末時点で事業効果に影響を及ぼす、関連する事業が完了しているため、計測結果を評価値(確定値)とする。	—	—	16,462	H23.3末	モニタリング			目標である「子供から高齢者まで安心して豊かに暮らせるまちづくり」に対する事業効果を測るため。	指標1を補完する。
								事後評価	確定 ●	見込み		
その他の数値指標2	歴史、文化や風土の満足度	%	平成27年10月に実施するアンケートにより満足度の調査を実施する。平成27年10月時点において、計画期間内事業で指標に影響するの大部分が完了しており、計測結果を評価値(確定値)とする。	—	—	6.9	H22	モニタリング			目標である「歴史と文化を活かした楽しく歩けるまちづくり」に対する事業実施効果を測るため。	指標3を補完する。
								事後評価	確定 ●	見込み		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

・平成24年4月16日に再開発ビル「ハイトピア」に移転、利用開始した生涯学習センターでは、ダンス教室などの市民サークル活動が活発に行われており、施設内外に日常的ににぎわいが生まれている。再開発ビル内の施設利用者がビル内や近隣の商店でする購買行動がにぎわいの好循環を生んでいる。

・生活環境施設整備により、平成26年9月に完成し同年10月に供用開始した「赤井家住宅」は、武家屋敷の趣を現代に残した貴重な施設であるが、飲食提供を含む事業の用に供するなど、幅広い利用を可能としていることから、中心市街地内に出店を考える人のチャレンジショップ的な用途にも利用され、そこから出店に繋がるなど、まちのにぎわい創出に寄与している。また、施設内のトイレを一般利用可能とし、周遊する観光客等の利便性を高めている。

・道路美化事業や景観修景補助事業により、エリア内の景観レベルが向上したことで、町家の保存に対する住民意識が高まり、文化財登録される建物が増加し、町家を改装して店舗運営するなどのにぎわい創出の好循環が生まれてきている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
歩行者・自転車通行量調査	予定どおり実施した	● ・年2回(3月、7月) ・上野市駅前地区第一種市街地再開発事業で平成25年に完成した再開発ビル「ハイトピア」と駅前駐車場整備により、計測地点における歩行者・自転車通行量が大幅に増えた。	今後も継続した調査を行う。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
観光客入込み客数調査	予定どおり実施した	● ・毎月 ・年間入込み客数はほぼ横ばいである。春、秋の行楽シーズンの入込みが多く、冬季は少ない。	今後も継続した調査を行う。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
うえのまちまちづくり協議会の開催(地元事業者、自治会代表者など17名で構成)	予定どおり実施した	● 【実施時期・回数】平成22年4月～平成27年3月末時点で、計20回開催 【実施効果】地元協議会と行政が連携しながら、協働による計画づくり、事業の検討など、街なみ環境の整備について協議したことにより、現状の認識を共有しながら事業実施することができた。	さらなる街なみ環境の向上にむけて、引き続き官民連携による取組みを進めていく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
忍町武家屋敷活用検討部会(うえのまちまちづくり協議会委員2名、地元自治会メンバー10名、行政職員2名で構成)	予定どおり実施した	● 【実施時期】平成23年4月～平成26年1月の間に計8回開催 【実施効果】地域住民が主体である検討部会により、今後の施設用途に合うよう内装設備から浄化槽設置にいたるまで細部に亘った協議を経て施設の供用に至った。	貸室として供用されており、多様な目的で利用されているところ、今後さらに地元の利用数を増やすことで、より愛着を持って利用されるよう努める。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
「株式会社 まちづくり伊賀上野」の設立	予定どおり実施した	● ・中心市街地のにぎわい創出のため、商工会議所と地元自治会、行政の連携により推進会議を重ねた。	株式会社まちづくり伊賀上野 ・中心市街地活性化基本計画において、官民協働で設立され、まちづくりに関連する各種協議会の事務局として調整の役割をもって活動している。 ・空き家バンク事業や駅前広場で毎月フードマーケットを開催している。	引き続き、中心市街地の活性化、にぎわいの創出に向けて、支援を行う。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
伊賀市社会資本総合整備計画検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> 産業振興部 中心市街地推進課 建設部 都市計画課 建設部 建設1課 健康福祉部 こども家庭課 教育委員会 生涯学習課 	第1回 平成27年10月26日	産業振興部 中心市街地推進課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標2		その他指標1		その他指標2					
指標名		歩行者・自転車通行量		子育て支援センター利用者数		歴史、文化や風土の満足度					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見		
基幹事業	高次都市施設 生涯学習センター整備事業	◎	上野市駅前地区第一種市街地再開発事業で平成25年に完成した、再開発ビル「ハイトピア」と駅前駐車場整備により、計測地点における歩行者・自転車通行量が大幅に増えたことにより、指標の達成につながった。	○	市内中心部に位置するハイトピア内に子育て支援センターの核となる施設を設けたことで、利便性と施設環境の良さから、既存の子育て支援センター未利用者が利用することで大幅な利用者増につながった。	—	街なみ環境整備事業で実施した道路美装化や生活環境施設整備(武家屋敷活用)、景観修景により、国指定重要無形民俗文化財である上野天神祭において巡行する楼車等の映える街なみ形成に寄与した。また、美装化道路や事業実施施設を利用した「灯りの城下町」イベントが実施されるなど、城下町らしい文化・風土をより感じられるような取組みも行われており、施設整備との相乗効果が見られる。				
	高次都市施設 子育て包括支援センター整備事業	◎		○		—					
	既存建造物活用事業 まち巡り拠点施設整備事業(成瀬平馬屋敷門)	—		—		◎					
	街なみ環境整備事業 道路美装化事業	○		—		◎					
	街なみ環境整備事業 小公園、緑地(紺屋町広場)	○		—		◎					
	街なみ環境整備事業 生活環境施設(赤井家住宅)	○		—		◎					
提案事業	地域創造支援事業 上野城築城400年記念事業	—				—			◎		
	地域創造支援事業 まちなか再生啓発イベント	○				○			—		
	事業活用調査 事業効果分析調査事業	—				—			—		
効果促進事業	伊賀市景観計画修正及び公共サイン計画策定	◎				—			◎		
関連事業	放課後児童クラブ整備事業	—		—		—					
	上野市駅前地区第一種市街地再開発事業	◎		◎		◎					
	伊賀上野橋新都市線社会資本整備総合交付金事業	◎		—		◎					
	保険センター 男女共同参画センター整備事業	◎		○		—					
	再開発ビルテナントミックス事業	◎		○		—					

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後、計画エリア北部の基幹観光施設からの人の流れを南部へ、誘導を図っていく。	施設利用者のニーズを確認し、さらなる施設利用満足度の向上に努めることにより、安心して豊かに暮らせるまちづくりの伸展を図っていく。	市民活動との連携により、住んでいる人が満足し、誇りに思える町並みを保全し、来訪者が歩いて楽しいと感じるまちづくりの伸展を図っていく。
-------	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標3								
指標名		暮らしやすさに関する満足度			観光客入込み								
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	高次都市施設 生涯学習センター整備事業	△	指標の計測対象、手法が適切でなく、直接的な事業効果の計測につながらなかった。ハイトピア内に設置した生涯学習施設、子育て包括支援センター共に多くの利用者があり、効果発現はその他指標により補完した。	I	—	当初計画で実施予定であった、観光交流施設整備事業(芭蕉翁記念館)が事業実施見送りになったことで、事業実施内容と効果発現指標との関連性が適切でなくなったため、事業効果が十分計測できなかった。	I						
	高次都市施設 子育て包括支援センター整備事業	△			—								
	既存建造物活用事業 まち巡り拠点施設整備事業(成瀬平馬屋敷門)	△			△								
	街なみ環境整備事業 道路美装化事業	△			△								
	街なみ環境整備事業 小公園、緑地(紺屋町広場)	△			△								
	街なみ環境整備事業 生活環境施設(赤井家住宅)	△			△								
	街なみ環境整備事業 景観修景	△			△								
提案事業	地域創造支援事業 上野城築城400年記念事業	—			—								
	地域創造支援事業 まちなか再生啓発イベント	△			△								
	事業活用調査 事業効果分析調査事業	—			—								
効果促進事業	伊賀市景観計画修正及び公共サイン計画策定	△			△								
関連事業	放課後児童クラブ整備事業	△			—								
	上野市駅前地区第一種市街地再開発事業	△			△								
	伊賀上野橋新都市線社会資本整備総合交付金事業	△			—								
	保険センター・男女共同参画センター整備事業	△			—								
	再開発ビルテナントミックス事業	△			△								

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類I: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類II: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類III: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類IV: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	指標の設定について、事業効果を適切に計測できるものであるか吟味し、適切な設定に努める。施設利用者を中心にニーズを確認し、今後も施設の利用促進を図っていく。	計画変更に伴い指標の設定を適切に変更するなど、事業効果を指標に適切に反映させることができるよう努める。民間活動との連携により、住民と行政が伊賀市の顔である城下町の歴史や文化を活かした取組みを一層進める。	
------------------	---	---	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
伊賀市社会資本総合整備計画検討委員会	<ul style="list-style-type: none"> 産業振興部 中心市街地推進課 建設部 都市計画課 建設部 建設1課 健康福祉部 こども家庭課 教育委員会 生涯学習課 	第1回 平成27年10月26日	産業振興部 中心市街地推進課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
交流施設の不足	中心市街地に、生涯学習センターや武家屋敷を活用した生活環境施設などの交流施設の整備を行うことができた。	空き家、空き店舗の利活用(d)を官民協働で取組むことにより、地域ニーズに即したまちづくりを進める。	なし
子育て世代を支援する場の不足	中心市街地に、子育て包括支援センターを拠点とした子育て世代を支援する場の整備(a)を行うことができた。放課後児童クラブと併設した公園整備により、就学後児童の居場所づくりも行うことができた。	支援施設基盤が整ったことにより、子育て世代を支援するための施策をさらに伸展させる。	
商店街への買い物客がアクセスしやすい環境整備	上野市駅前地区第一種市街地再開発事業により完成した、駅前駐車場の整備により、上野市駅前に隣接した商業エリアへの買い物のアクセシビリティが向上(b)した。	駐車場が足りなくなるくらい日常的に繁盛する個店の創出を図るべく官民協働の取組みを進める。中心市街地内駐車場の連携(e)に取組み、中心市街地の利便性の向上を図る。	
観光資源の動線をつなぐ回遊したくなる環境整備	街なみ環境整備事業により、城下町らしい景観の向上(c)に寄与した。	伊賀市の伝統産業を活かした商店が街中に点在しており、イベントや広報活動により市内外への情報発信に努める(f)。一律の環境整備にとどまらず、住民参加プロセスにより協働で魅力あるまちのスポットづくりを進める。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	(a)子育て世代を支援する場の整備	施設の基盤整備を図ることができたことから、今後は利用者ニーズを把握し、必要とされる支援施策を講じる。	・子育て支援事業
	(b)商業エリアへの買い物のアクセス性が向上	周辺駐車場との連携により更なるアクセス性の向上を図る。	・民間既存駐車場との連携による事業
	(c)城下町らしい景観の向上	景観計画に基づき、さらなる景観の向上を図る。	・景観修景補助事業

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	(d)空き家、空き店舗の利活用	住民ニーズを満たす利活用策を官民連携の取組みとして進め、既存資源を有効に活用する。	・空き家、空き店舗利活用事業
	(e)中心市街地内駐車場の連携	点在する中心市街地内の駐車場について、利用者ニーズと土地所有者の意向をマッチングすることで商業エリアの活性化を図る。	・駐車場管理組合の組織化
	(f)イベントや広報活動により市内外への情報発信	一過性のイベント開催に始終せず、継続した効果を期待できるイベントや広報活動としていく。	・伊賀の伝統産業や食文化、個店の魅力の発信につながるイベント事業

フォローアップ又は次期計画等において実施する改善策を記入します。

本的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・ハイトピア地下駐車場、駅前駐車場は平日、休日問わず利用率が高いことから、周辺駐車場との連携により人・車の流れをよりスムーズにする取組みが必要である。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度	確定 ●	見込み ○		あり ●	なし ○	予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	暮らしやすさに関する満足度	%	15	H21	18	H27	確定 ●	7.3	×	あり ●	→	—	—	指標補完のため、その他指標1で効果計測している。
							見込み ○			なし ○				
指標2	歩行者・自転車通行量	人/日	2,462	H21	3,819	H27	確定 ●	4,096	○	あり ●	→	平成28年3月	中心市街地における商業重点軸(本町通り、再開発ビル周辺)4地点における歩行者通行者数を測定する。	—
							見込み ○			なし ○				
指標3	観光客入込み客数	人/年	416,258	H21	423,220	H27	確定 ●	361,302	×	あり ●	→	—	—	指標補完のため、その他指標2で効果計測している。
							見込み ○			なし ○				
その他の数値指標1	子育て支援センター利用者数	人/年	16,462	H23.3末	/		確定 ●	37,429	/	/	→	—	—	—
その他の数値指標2	歴史、文化や風土の満足度	%	6.9	H22	/		確定 ●	53.1	/	/	→	—	—	—
					見込み ○	/	/							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標・成果の達成	うまくいった点	特になし	指標設定について、既存庁内アンケート等を利用する方法は費用・時間がかからず一見効率的とも思われるが、事業効果を十分反映できる指標かどうかを計画段階で事後評価を想定して吟味するよう努める。
	うまくいかなかった点	総合計画に基づく「まちづくりアンケート」の1設問に対する回答を計測する手法としたが、都市再生整備計画事業の実施内容について示しているものでなく、また、市内全域を対象としていることから、事業効果を計測する手法として十分でなかった。	
数値目標と目標・事業との整合性等	うまくいった点	特になし	事業内容の変更と共に、指標への影響が大きい場合などは、指標設定を修正するなど、効果発現が指標に反映されるように努める。
	うまくいかなかった点	当初計画で実施予定であった、観光交流施設整備事業(芭蕉翁記念館)が事業実施見送りになったことで、事業実施内容と効果発現指標との関連性が適切でなくなったため、事業効果が十分計測できなかった。	
住民参加・情報公開	うまくいった点	武家屋敷活用事業において、既存建物に愛着をもった地域住民が主体である検討部会により、今後の施設用途に合うよう、内装設備から浄化槽設置にいたるまで細部に亘った協議を経て施設を供用することができた。	今後も、施設計画やまちづくりに、市民意見を取り入れ、市民に親しまれる公共施設の整備に努める。
	うまくいかなかった点	特になし	
PDCAによる事業・評価の進め方	うまくいった点	特になし	計画期間中に、適宜PDCAを回し、計画実効性の向上に努める。
	うまくいかなかった点	当初計画で実施予定であった、観光交流施設整備事業(芭蕉翁記念館)が事業実施見送りになったことで(P・D)、事業実施内容と効果発現指標との関連性に大きな変化があったことにより(C)、適切に指標設定を変更(A)すべきであった。	
その他	うまくいった点	特になし	
	うまくいかなかった点	特になし	

添付様式6ー参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

※中活計画や歴史的風致維持向上計画と関連して事業の具体性が高まった時点で、うえのまち地区を含む新規計画を予定している。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成27年12月1日～12月15日	平成27年12月1日～12月15日	担当課への郵便、電話、電子メール、FAX等	産業振興部中心市街地推進課
広報掲載・回覧・個別配布	広報いが市に掲載(市ホームページ及び中心市街地推進課で供覧している旨を掲載)	平成27年12月1日号	—		
説明会・ワークショップ	うえのまちまちづくり協議会での意見交換	平成27年12月21日	—		
その他	中心市街地推進課窓口において供覧	平成27年12月1日～12月15日	平成27年12月1日～12月15日		

住民の意見	
-------	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

※審議会が想定時期に開催されなかったことから、審議会の代表者として学識経験者でもある浦山会長に意見聴取した。

	委員構成	実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	浦山 益郎、森 正美、田山 雅敏、浅野 潤憲、霧崎 正宣	平成27年12月25日	産業振興部中心市街地推進課	伊賀市都市計画審議会条例	伊賀市都市計画審議会
その他の委員	上田 宗久、森岡 昭二、福田 香織、西條 エリ子、石山 淑子、荻田 哲郎、前田 繁一、片山 靖浩、服部 光治				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	特になし
	成果の評価	・ハードの整備が出来、整備事業施設と周辺への来街者が増加していることが捉えられている。まちなかへどのように賑わいを波及していくのか、現状では不明な部分があることから今後の取組の視点とされたい。 ・目標を定量化する指標として、多様な集客性を考慮することや、トラベルコストの観点からの評価など、多様な視点から評価できるよう情報を収集分析するよう努められたい。
	実施過程の評価	・施設整備やまちづくりのプロセスにおける住民参加は、もはや当然の流れにあり、事業実施後の運営面での住民参加の取組が現状では弱いので、今後の取組で反映されたい。
	効果発現要因の整理	・道路美化や景観修景などの街なみ環境整備事業は、観光客などの集客性向上のみならず、暮らしやすさの向上にもつながるはずである。効果として反映された評価とされたい。
	事後評価原案の公表の妥当性	特になし
	その他	事後評価の様式は決まっているのかもしれないが、読み易いものに改善されたい。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	特になし
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・来街理由(まちの魅力向上)における多面化の視点をもって取組まれたい(空き家活用などのハード整備中心では多面化の視点が弱い)。 ・中心市街地活性化基本計画における整備案との連携、影響を分析して進められたい。
	フォローアップ	特になし
	その他	特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・都市再生整備計画は主にハード整備中心の事業であるが、まちづくりはハード中心の取組だけでは機能させることができない。まちづくりの発展性、継続性のあるソフト事業のさらなる展開を図っていくことが必要である。 ・中心市街地活性化基本計画における整備事業との連携、影響など、今までの事業から現在、そして今後の取組へとつなぐモノ、コトの視点が必要である。
その他	特になし	

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--

都市再生整備計画

うえのまち地区

三重県 伊賀市

平成27年9月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	三重県	市町村名	伊賀市	地区名	うえのまち地区	面積	140 ha
-------	-----	------	-----	-----	---------	----	--------

計画期間	平成 23 年度 ~ 平成 27 年度	交付期間	平成 23 年度 ~ 平成 27 年度
------	---------------------	------	---------------------

目標

- 人が集まり賑わい、次世代を育てる繋げるまちの創造
 目標1: 子供から高齢者まで安心して豊かに暮らせるまちづくり
 目標2: にぎわいのある中心市街地の復興
 目標3: 歴史と文化を活かした楽しく歩けるまちづくり

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

・当地区は、本市のほぼ中央に位置し、上野城下町を中心とした、小高い段丘上という特徴的な地形で構成している。人口は本市全域の約12%を占める。上野城下町は基盤の目状の風情あるまちなみが歴史遺産として今なお残っており、毎年秋には伝統ある上野天神祭が行なわれる。

・中心市街地には商業・業務・文化機能などが集積しており、上野市駅周辺地区はバスや鉄道の公共交通の接点にもなっているほか、国道25号、国道163号をはじめ、中央には銀座通りが走っている。また地区周辺にはJR線や近鉄線、名阪国道があり、広域連携を可能にし、それらが近隣府県との交流基盤の役割を果たしている。

・しかし、モータリゼーションの進展とともに、公共交通機関の利用は減り、車でのアクセスがしやすいロードサイド型の大型商業施設が増加し、これまで商業の中心であった中心市街地の商業集積は、急速に衰退することとなった。また、近年の若い世代が流出する傾向は少子高齢化に拍車をかけ、空き家・空き地の増加や、商業の衰退による後継者不足、空き店舗の増加、経済の空洞化といった問題を抱えている。

・俳聖松尾芭蕉生誕の地であり、上野城をはじめとする忍者屋敷、芭蕉翁記念館、俳聖殿など数多くの観光資源に恵まれているほか、市内には歴史的な建築物が数多く分布し、伝統的なまちなみを形成しており、これらを保全・活用することにより、新たな観光資源となりうる。そのほか多数の店舗等がまちかど博物館に指定され、伊賀の文化を伝え、来街者との交流の場となっている。しかし、これら個々の資源をつなぐ動線が確立されていないため、まちなかの観光資源が活かされず来街者の回遊が少ない現状となっている。

・多様なまちづくり団体の参加と事業展開が必要であるため、文化、環境、福祉、住宅といった生活と深く関わるまちづくりの分野に取り組むとともに、商業や観光の面での充実を図るために、平成20年11月伊賀市中心市街地活性化基本計画の認定を受け、活性化に向けた取り組みを行っている。

課題

・市役所をはじめ商業・業務・文化機能が集積し、バスや鉄道の公共交通の拠点であるべき中心市街地において、子供から高齢者までが安心して豊かに暮らすために必要な交流施設や、子育て世代を支援のする場など公共サービス機能が不足している。このことにより若い世代が当地区から流出し、少子高齢化に拍車をかけているため、さまざまな世代が暮らしやすい環境整備を行う必要がある。

・市街地近郊へのロードサイド型の大型商業施設の出店により、商店街は衰退し、商業機能が低下しているため、買い物客がアクセスしやすい環境を整備する必要がある。

・上野城をはじめとする数多くの観光資源があるにもかかわらず、これら個々の資源をつなぐ動線が確立されていないため、歴史的な数多くの建築物により形成される伝統的なまちなみを有効に活かした回遊したくなる環境を整備する必要がある。

将来ビジョン(中長期)

■伊賀市総合計画(2006-2015)

コンパクトでにぎわいのあるまちづくりをめざすため、「伊賀市中心市街地活性化基本計画」を策定し、都市機能の市街地への集約と中心市街地のにぎわい回復に向けて一体的な取り組みを進める。また、多様な民間主体が参画する中心市街地活性化協議会を設立し、広範かつ総合的なタウン・マネジメント活動に取り組むことにより、中心市街地活性化を推進する。

■伊賀市都市マスタープラン

上野市駅を中心とする拠点である中心市街地は、上野城下町であったという歴史的な背景、江戸時代から続く商人町を中心とした商業集積、市内を通る国道の結節点、公共・公益施設の集中立地など、本市における中心的なエリアであると位置付けている。

また、市域におけるDID地区はこのエリアを含む地域のみであり、人口を集中させるとともに、ここを中心として、国道や鉄道などにより地域がつながり、生活支援サービスや観光情報、農産物や加工品等の特産物が集中することによって、地域間のネットワークを形成する拠点的な役割を担うことが求められる。

目標を定量化する指標

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
				基準年度	目標年度	
暮らしやすさに関する満足度	%	買い物、スポーツ、子育て、文化等の暮らしに関する市民の満足度(まちづくりアンケート)	市民の暮らしに関する豊かさや安心などの満足度を把握する指標	15.0	21	27
歩行者・自転車通行量	人/日	上野市駅前周辺地区(4箇所)における歩行者・自転車通行量	賑わいを定量的に把握するための指標	2,462	21	27
観光客入込み客数	人/年	市街地の観光施設の入込み客数	歴史、文化を活かしたまちづくりの効果を把握するための指標	416,258	21	27

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(安心して豊かに暮らせるまちづくり)</p> <p>◎上野市駅前地区の市街地再開発事業により、地域の誰もが利用できる生涯学習施設や子育て支援センター、保健センターなど高次都市施設を導入し、また放課後児童クラブなどの次世代育成支援施設を整備することで、子供から高齢者まで安心して豊かに暮らせる環境整備を行う。</p> <p>◎建替えについて検討している新市庁舎を地域交流や安心安全を考慮した総合的なまちづくりの視点をもって、当計画と一体的な整備を目指す。</p>	<p>方針に合致する主要な事業</p> <p>■基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て包括支援センター整備事業、生涯学習センター整備事業(高次都市施設) ・まち巡り拠点施設整備事業(成瀬平馬屋敷門活用事業)(既存建造物活用事業) <p>●関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上野市駅前地区第一種市街地再開発事業 ・伊賀上野橋新都市線社会資本整備総合交付金事業 ・保健センター・男女共同参画センター整備事業 ・放課後児童クラブ整備事業 ・伊賀市役所新庁舎建設事業 ・再開発ビルテナントミックス事業 <p>○関連社会資本整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(都)上野丸之内駅前広場線整備事業 ・(都)伊賀上野橋新都市線整備事業
<p>整備方針2(にぎわいのある中心市街地の復興)</p> <p>◎再開発ビルへの魅力あるテナントの誘致、公共公益施設の導入、駅前広場にゆとりある空間を創出することにより、中心市街地の中心性及び求心力を回復させ、まちなかににぎわいを創出する。</p> <p>◎車社会に対応した駐車場整備や歩行者空間の整備により利便性の向上を図ることで、周辺地区住民のまちなかへの来訪機会の増加を図る。</p>	<p>■基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(再掲)子育て包括支援センター整備事業、生涯学習センター整備事業(高次都市施設) 街なみ環境整備事業 (道路美化事業、広場整備事業、生活環境施設整備事業、修景助成事業) <p>□提案事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちなか再生啓発イベント <p>●関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(再掲)上野市駅前地区第一種市街地再開発事業 ・(再掲)伊賀上野橋新都市線社会資本整備総合交付金事業 ・(再掲)保健センター・男女共同参画センター整備事業 ・(再掲)再開発ビルテナントミックス事業 <p>○(再掲)関連社会資本整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(都)上野丸之内駅前広場線整備事業 ・(都)伊賀上野橋新都市線整備事業
<p>整備方針3(歴史と文化を活かした楽しく歩けるまちづくり)</p> <p>◎俳聖松尾芭蕉翁の生誕地として俳句文化を全国に発信する拠点づくりを行うことにより、市外からの集客を図るとともに、町家や歴史的な建物が残る城下町エリアへの観光客の誘導を図る。</p> <p>◎400年前に藤堂高虎が開いた城下町(うえのまち)地区に残る町家や町並みの保全、歴史ある上野天神祭りの楼車や鬼行列が巡行するルートの美化により、まちなかでの回遊性を高めることで、来訪者が歩いて楽しいと感じるまちづくりを行う。</p>	<p>■基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(再掲)まち巡り拠点施設整備事業(成瀬平馬屋敷門活用事業)(既存建造物活用事業) ・(再掲)街なみ環境整備事業 (道路美化事業、広場整備事業、生活環境施設整備事業、修景助成事業) <p>□提案事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上野城築城400年記念事業(地域創造支援事業) <p>○関連事業(効果促進事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊賀市景観計画修正及び公共サイン計画策定
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地活性化基本計画の推進 当計画における事業は「伊賀市中心市街地活性化基本計画」に基づく事業である。行政がこれらの事業推進による環境整備を行い、まちなかへの誘導を推進することで、商店街やまちづくり会社等が活性化に向けた取り組みを行ない「にぎわい」を復活させる。 ・市民参加による事業推進 街なみ環境整備事業については「うえのまちなかまちづくり協議会」との協働により整備計画を策定している。事業実施段階においても近隣住民のワークショップによる広場の実施設計を行うなど市民参加型の事業推進を行っている。 	

